



高い志のもと、日々“キラリ”と光る活動をしている人たちがいる。
“黄金の郷”“いわて平泉を支える、魅力溢れる”こしえるびと“のメッセージをシリーズで紹介していく。

農業を引き継ぎ守り抜いていく

大東町摺沢
那須 翔さん

農業の道へ

「自分が就農するに当たり、農業への抵抗は全くありませんでした」。そう話しながら牛に優しくブラシを掛ける翔さん。まるで牛に話しかけているかのような手つきに、牛も気持ちよさそうにじっと身を任せている。

和牛繁殖農家の次男に生まれ、幼い頃から牛と身近に触れ合い、父・勉さんが働く背中を見て育った。4人きょうだいの兄と姉はそれぞれ就職のため家を離れたが、翔さんは高校の商業科に進み、卒業後は地元の日ピス岩手に就職。祖父から農業を継ぎ、守り抜いて





きた父も次男で、いつの頃からか父の姿を自分に重ね合わせるようになっていた。農業への興味が募り、ついに「自分がやるしかない」と決断。しかし「見るのと、するのは天地の差」。大変なことの方が多く、特に年間約1000個ほど確保する牧草のロール運びはきつく重労働だった。

技術を引き継ぎ生かす

就農してから一年半。餌やりから始まり、できることを確実に覚えながら、今では出荷時の牛引きなども行う。「いずれ自分が経営する時に向けて、できることを増やしていきたい。父の技術や培った経験を引き継ぎ、早く一人前になって安心させたいです」と翔さんは話す。仲間を求めて和牛青年部にも加入し、先輩からさまざまな話を聞いて知識を吸収している。

父の背中を追いつ 挑戦し続ける

就農して実際に作業することで、和牛繁殖農家の全体像が具体的に見えてきた。父の存在の大きさも改めて分かり、父のようにになりたい、父を

超えたいという意欲も高まっている。父は「自分の考えをぶれずにしっかりと持ち続ける人」。今は指導してもらえない立場だが、いずれは自分で考え行動できるようにならなければならないと思っている。「自分が手塩にかけて育てた子牛を肥育農家の方に高く評価していただいた時がとても嬉しい。これからも高い評価が得られる、より良い子牛を出荷していきたい」と意欲を燃やす。

——和牛繁殖農家として
 一步一步着実に前進している翔さん。「父は28歳のときに和牛繁殖農家を始めました。自分も30歳になる頃には父のように経営していきたい」と決意を語る。

PROFILE

那須 翔さん (25)

Shou Nasu

大東町摺沢

1992年大東町摺沢生まれ。大東高校卒業後、(株)日ピス岩手勤務を経て2016年就農。現在、母牛8頭、子牛5頭を飼養し水稻1.6畝を栽培。農業の傍ら空いた時間を活用し警備会社の仕事もこなす。祖母、両親、妻、の5人暮らし。



私の一品

ゴルフクラブ

18ホールを共にプレーする心強い相棒。忙しい仕事の合間に行くゴルフが何よりのストレス発散法。プレー中に見える景色が楽しみでリフレッシュの時間です。